

全国学力・学習状況調査の結果について（公表）

塩尻市教育委員会

1 趣 旨

本年4月18日(木)に実施した「平成31年度全国学力・学習状況調査」について、国及び県の調査結果の公表があり、これに基づき、本市の結果を分析しましたので、その概要をお知らせするものです。

2 調査の概要

(1) 調査の目的（文部科学省）

全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査の対象学年と実施した学校数・児童生徒（小中学生）の人数

対象学年	対象学校数	学校数（実施率）	実施人数
小学校第6学年	9	9（100%）	600人
中学校第3学年 （両小野中学校を含む）	6	6（100%）	519人

(3) 調査の事項及び手法

ア 児童生徒に対する調査（本年度から、知識と活用を一体的に問う調査問題）

① 教科に関する調査

小学校調査は、国語および算数、中学校調査は、国語、数学及び英語。英語においては「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと」、「書くこと」に関する問題を出題し、「話すこと」に関する問題の回答は口頭記述とした。

② 質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査。

イ 学校に関する質問紙調査

学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査。

3 児童生徒に対する調査結果

(1) 教科に関する調査結果の全体概要

ア 小学校第6学年は、国語、算数それぞれにおいて、全国及び県平均正答率を上回る結果でした。特に国語については大きく上回りました。

イ 中学校第3学年は、国語は全国及び県平均とほぼ同じ、数学は全国及び県平均を大きく上回りました。英語は全国平均を下回りましたが、県平均は上回りました。

(2) 各教科の調査結果と今後の対応

ア 小学校（国語）

国語の調査結果を見ると、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の全ての領域で全国を上回っております。今後は、全

国的に定着が低い「目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く」などの活用力を一層高めていくことが望まれます。

イ 小学校（算数）

算数の調査結果を見ると、「数と計算」「量と測定」「数量関係」の領域は全国を上回っておりますが、「図形」の領域が課題となっております。「数学的な見方・考え方」については、いずれの領域においてもバランスよく力を付けてきているので、今後は、資料から情報を読み取り、整理して説明する力をさらに高めていくことが望まれます。

ウ 中学校（国語）

国語の調査結果を見ると、「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域は全国を上回っておりますが、昨年同様「話すこと・聞くこと」の領域に課題があります。文章の展開に即して内容を捉える力や、相手の意見や考えに応じて、自分の考えが伝わるように話すなど、総合的な力を高めていくことが望まれます。

エ 中学校（数学）

数学の調査結果を見ると、「数と式」「図形」「関数」「資料の活用」の全ての領域で全国を上回っております。しかし、連立方程式を解く問題だけは、全国平均を下回っているため、学校差を解消する手立てを考えたい。「数学的な表現を用いて説明する」など、資料を活用しながら、数理について考えを説明したり記述したりする力をさらに高めていくことが望まれます。

オ 中学校（英語）

英語の調査結果を見ると、「読むこと」の領域は全国を上回っておりますが、「聞くこと」「書くこと」が課題です。まとまった英文を聞いて複数の情報を整理して聞く力や、使用場面を理解して状況に応じて書く力をさらに伸ばしていく必要があります。「話す」ことについては全国を上回っており、小学校からの英語学習の成果が表れていると考えられますが、状況に応じて即興で対話を続ける力を高めていくことが望まれます。

(3) 児童生徒質問紙調査結果から

ア 塩尻市の市民運動「早ね 早おき 朝ごはん・どくしょ」の観点から

- ・質問番号 (1) 朝食を毎日食べているか
- ・質問番号 (2) 毎日、同じくらいの時刻に寝ているか
- ・質問番号 (3) 毎日、同じくらいの時刻に起きているか

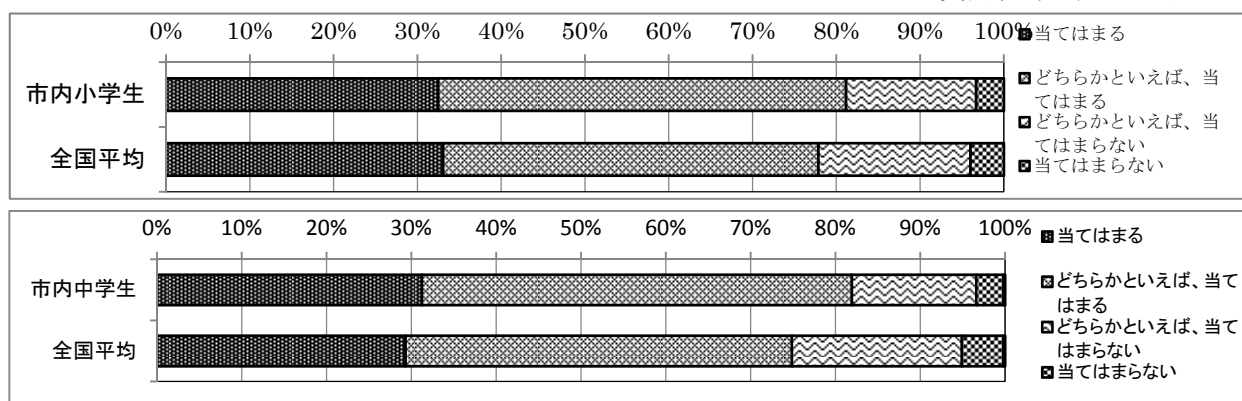
上の3つの調査結果をみると、「朝ごはん」については、「している」「どちらかといえば、している」は小学生97%、中学生93%であり、良好な状況です。「早ね」については8割、「早おき」については、9割以上の児童生徒がだいたい決まった時間に寝起きしており、規則正しい生活習慣が定着しています。

平日の家庭での読書時間は、「一日30分以上」で見ると、小学生49.4%（全国39.8%）、中学生35.5%（全国26.8%）であり、全国に比べ、10%ほど高くなっています。また「学校図書館や地域の図書館へ本を借りにどのくらい行きますか」の質問については、行く割合が全国より高く、各学校での一斉読書や市立図書館・分館や地域と連携した読み聞かせの取組みが成果を上げていることが分かります。

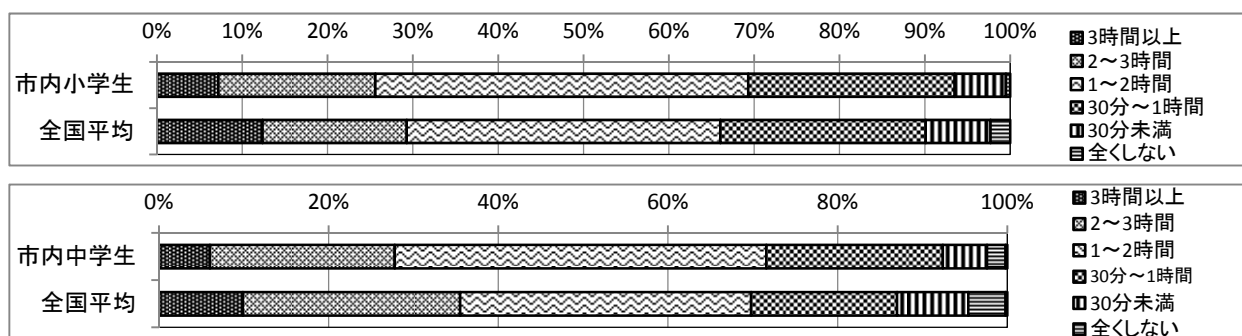
イ 学習に関する観点から

① 【授業では、課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいますか】

質問番号 (35・37)



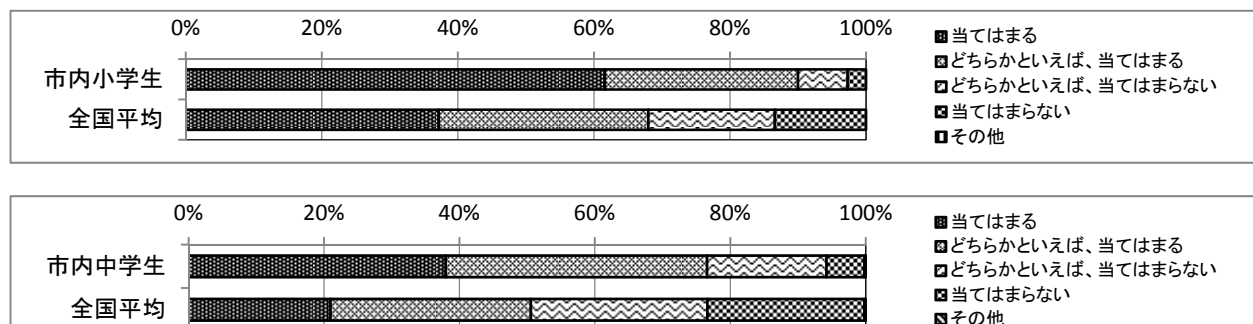
② 【平日 1 日の家庭での学習時間】 質問番号 (14)



授業の課題に対する主体的な取り組みについては、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」が、小学生 81% (全国 78%)、中学生 82% (全国 75%) でした。小中学校ともに全国に比べて高く、教師から示される課題や、自分たちで立てた課題に対して、自分から考えて取り組む主体的な姿勢の児童生徒が多いことがわかります。また、平日の家庭学習の時間は、小中学校ともに 1 時間から 2 時間が最も多く、家庭学習 1 時間以上の児童生徒は、小学生 69% (全国 66%)、中学生 72% (全国 70%) でした。また、家庭で全く学習をしない児童生徒の割合は全国より低く小学校 0.5%、中学校 2.2% でした。「家で計画を立てて学習している」児童、生徒の割合は全国より高い傾向にあります。引き続き家庭と協力して計画的な学習ができるように支援していきます。

ウ 地域や社会との関わりの観点から

【今住んでいる地域の行事に参加していますか】 質問番号 (23)

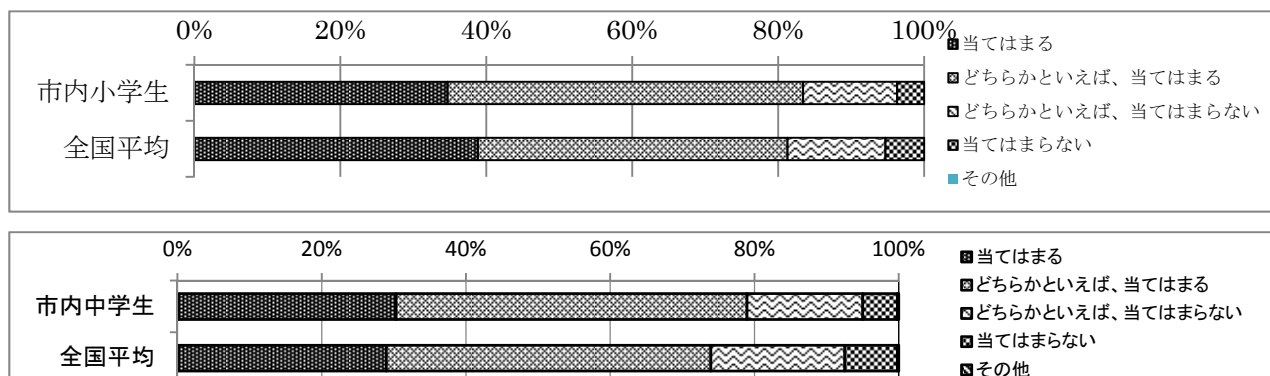


地域や社会の行事に参加する児童生徒の割合は、「当てはまる」でみると小学生 62% (全国 37%) 中学生 38% (全国 21%) で、全国よりかなり高い割合となっています。また、「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか」の問いについても、

「考えることがある」と答える児童生徒の割合も全国より高く、地域や社会に関心を向け、地域の行事に積極的に参加している様子が伺えます。

エ 自分自身についての観点から

【自分には、よいところがあると思いますか】 質問番号 (5)



自分には、よいところがあると思いますかとの質問について、「当てはまる」「どちらかというところにあてはまる」と答えた児童生徒の割合は、小学校 83.4% (全国 81.2%)、中学校 79.2% (74.1%) であり、多くの子どもたちが自己肯定感を持って、前向きに生活をしていることが伺えます。

4 学校に関する質問紙調査結果から

(1) 教科指導

項 目	小学校	中学校
〈学校質問番号 (37)〉	11.1%	0%
習得・活用及び探究の学習課程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか	22.1%	20.8%

※数値 (%) は、「よく行った」の割合

ア 児童、生徒への質問で「授業では、課題解決に向けて、自分で考え取り組むことができますか」の問いに「そのとおりだと思う」「どちらかといえばそう思う」の合計が、小中学校ともに80%を越えており、児童生徒が課題をもって取り組む授業の実践が進んでいることが伺えます。しかし、上の結果から、学校は学びのプロセスを見通した指導方法の改善について、まだ不十分であるととらえ、さらに工夫をしていく必要があります。

項 目	小学校	中学校
〈学校質問番号 (50)〉	55.6%	20.0%
特別支援教育について理解し、児童生徒の特性に応じた指導上の工夫(板書や説明の仕方、教材の工夫など)行いましたか。	40.1%	38.8%

※数値 (%) は、「よく行った」の割合

イ 小学校では、一人ひとりの児童生徒の特性に応じた指導の工夫を行ってきていますが、中学校では、まだ十分行われていないことが伺えます。

(2) 教育課程の編成

項 目	小学校	中学校
〈学校質問番号 (17) 〉 調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか	44.1%	40%
	全国平均 37.3%	全国平均 33.9%
〈学校質問番号 (18) (19) 〉 指導計画作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的にくみあわせていますか	77.8%	40.4%
	全国平均 46.9%	全国平均 29.4%
〈学校質問番号 (30) (31)〉 学校運営の状況や課題を全教職員で共有し、学校として組織的に取り組んでいますか	66.7%	60.0%
	全国平均 59.2%	全国平均 51.4%

※数値 (%) は、「よく行った」の割合

新しい指導要領に向け、編成した教育課程について、実施、評価して改善するなどのPDCAサイクルがどの学校でも確立しつつあります。また、教職員も全員で課題を共有しながら、指導計画も地域等の外部の資源を生かしながら効果的な組み合わせを考えています。

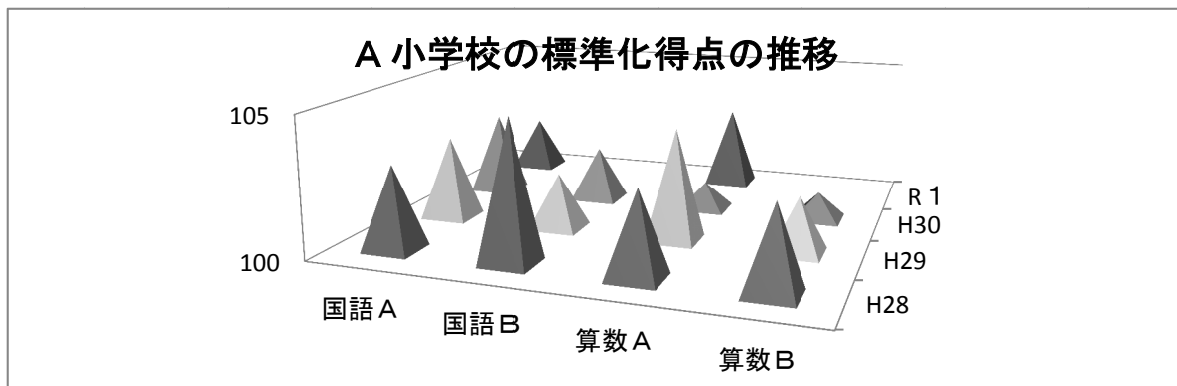
(3) 地域との連携

項 目	小学校	中学校
〈学校質問番号 (57) 〉 コミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして、保護者や地域の人との協働による活動を行いましたか	77.8%	20%
	全国平均 39.4%	全国平均 27.9%
〈学校質問番号 (58) 〉 地域や地域の人との協議によると取組は、学校の教育水準向上に効果がありましたか	66.7%	40%
	全国平均 48.0%	全国平均 34.1%

※数値 (%) は、「よく行った」「効果があった」の割合

小学校では、コミュニティ・スクールの仕組みを生かして、地域の人や保護者と関わり、協働による活動が盛んに行われるようになってきました。また、長期休業中の学習支援や総合的な学習の時間での地域活動など、地域と協働した活動が、教育効果をあげていると小中学校ともにとらえています。

5 学力向上に向けたA小学校の取組み



※標準化得点 全国平均を100とした時の数値（令和1年はABをなくして実施しましたが、Aの欄に記載してあります）

A小学校の全国学力・学習状況調査の教科得点は上のグラフのように、平成28年度以降全ての教科で全国平均を上回っております。この小学校は、どのような取り組みで成果を上げているのでしょうか。

(1) よいことを進んで行おうとする学校風土

学校長や職員に「学力が毎年安定して高いのは、何か秘密があるのですか？」と聞くと「本校は特別なことはやっていません。当たり前のことを皆でそろえてやっているだけです」という答えが返ってきました。学校長は「いろいろ課題がある子たちも、6年生になるとそれなりに成長し最上級生らしくなってきます」と語っています。学校の目標は「正しく、強く、美しく」であり「公のことを進んで行うこと」が学校の伝統として、子どもたちや職員の中に浸透しています。相手の気持ちを考え人に優しくする、善いと思うことは進んで実践していくことが



〈図書委員による低学年への読みきかせ〉

が当たり前のこととして、高学年の子どもたちが模範を示し、自然に低学年の子どもたちがそれを見習っています。人としての立ち振る舞いを大切にし、互いを思いやる心を育てている学校風土こそが、高い学習意欲を培い学力向上の基盤になっていることを感じます。

(2) 重点をはっきりさせた日常の実践と評価

学年3～5学級ある学校なので、学年で学習の内容や進度などは揃えて同一歩調で取り組んでいますが、次の2つは全校の重点としてどの学級でも取り組んでいます。

ア 自ら考える力を養うために、基礎的な「聞く」「話す」「書く」を総合した「つたえる力」の向上を重点としています。6年生は児童会の発表の場では、原稿を見ずに頭の中で話を組み立てながら話すことができるようになることを目標とするなど、学年に応じて具体的な目標を設け取組み、それぞれの子どもの姿を評価しています。

イ「どの子にも分かる授業」を実現するために。教室の環境を整え、毎日の授業において課題や授業の見通しを板書したりするなど、学びのユニバーサルデザインを大切に取組んでいます。

(3) 日課や学習形態の工夫

ア 習熟タイム 学習の定着を目指して週4日間13:50～14:00までの時間を「習熟タイム」として日課に位置づけています。教科の復習や繰り返しの必要な学習などを行いながら基礎力を高めています。

イ 算数のコース別学習 現在の6年生は算数を6コース(5クラス)にして、習熟度別の学習をしています。4年～6年生は、個の力に応じて学習効果があがるように、担任以外の教師を加えて、学級単位を越えてのコース学習を行っています。

ウ 学習支援ボランティア 家庭科、体育の授業や校外学習などに保護者を中心とした地域の支援ボランティアが、担任に協力して子どもたちの支援にあたっています。



〈ミシンを使った家庭科学習の支援〉

6 市内小中学校の今後の取組み

A小学校は、人としての成長を第一とする学校風土の中で、教師と子どもがよい関係を築き、仲の良い暖かな学校をつくっています。そして、全職員が学校の重点に沿って丁寧な授業をしていく中で、学力が向上してきたと考えられます。この実践に学びながら本市の「一人ひとりの育ちに、ていねいに向き合う教育」を基本理念とし、次のことを大切に取組みたいと考えています。

(1) 塩尻市の重点施策を活かした生活の基盤づくり

塩尻市が推進している「早ね 早おき 朝ごはん・どくしょ」の市民運動に基づく様々な取組みが行きわたり、小中学生の規則正しい生活習慣や読書の位置づいた生活となって表れ、教科学習の土台を支えています。今後も子どもたちが、家族の一員として家庭での役割を果たしたり、ネットやゲーム、学習や読書等の時間をバランスよく配分したりする、自立的な生活づくりが進むよう保護者と協力して家庭生活を充実させてまいります。

(2) 元気っ子応援事業を核とした個に応じた支援

一人ひとりに応じた育ちを応援していく「元気っ子応援事業」とともに歩んできた子どもたちが高等学校に進学しています。学校質問紙の「児童生徒の特性に応じた指導の工夫」についてはまだまだ取組みの向上が望まれます。これからも、自尊感情を育み、個々が持っている力がさらに伸びるよう「元気っ子応援事業」を推進します。また、担任と市独自加配講師や支援員との連携によるティームティーチングや少人数学習、個別学習などの指導方法についても、改善を図りながら継続してまいります。

(3) 教員の指導力向上と授業改善

ア 授業のはじめに「目標(めあて・ねらい)を示す」活動や、授業の終わりに「学習を振り返る」活動をきちんと位置づけるなど、児童生徒が主体的に学べる授業の形を定着させ、情報機器を有効に使いながら、どの教室でも確かな学力が身につく授業が展開されるよう一層努めてまいります。

イ 教科学習の中で、基礎・基本の定着を図るとともに、「自分たちで課題を見つけ、その解決に向けて情報を集め、学級やグループで話し合いながらまとめ、記述し発表する」など、子どもの学びのプロセスに即した単元展開を考え、いろいろな人と関わりながら対話的に学ぶ活動を充実させてまいります。

(4) コミュニティ・スクールを生かした体験的な学習やキャリア教育の充実

学校運営協議会の活動が活発になり、学校支援ボランティアによる学習支援や、長期休業中の学習支援も充実してきました。学校支援コーディネーターとの連携を密にし、地域の力を生かしながら、子どもたちが自ら課題を見つけ、自ら解決する力を身につけるため、「体験的な活動」や、自らの将来を考える「キャリア教育」についても充実させてまいります。



〈夏ゼミのダンス講座で田川高校生と踊る〉

(5) 小中一貫した指導内容・方法の研究

来年度からの新学習指導要領では、英語が教科として小学校に位置づくこともあり、小中の連携を考えた指導実践が進んでいます。英語に限らず、小学校と中学校で指導の隙間を生み出さないよう、中学校区毎に児童生徒理解を深め教育目標を共有しながら、9年間の系統的な指導内容・方法について研究検討し、一貫性のある教育の推進に努めてまいります。